

英国における生物多様性ネットゲイン政策と 都市の再野生化の実践

東京大学 総括プロジェクト機構 山崎嵩拓

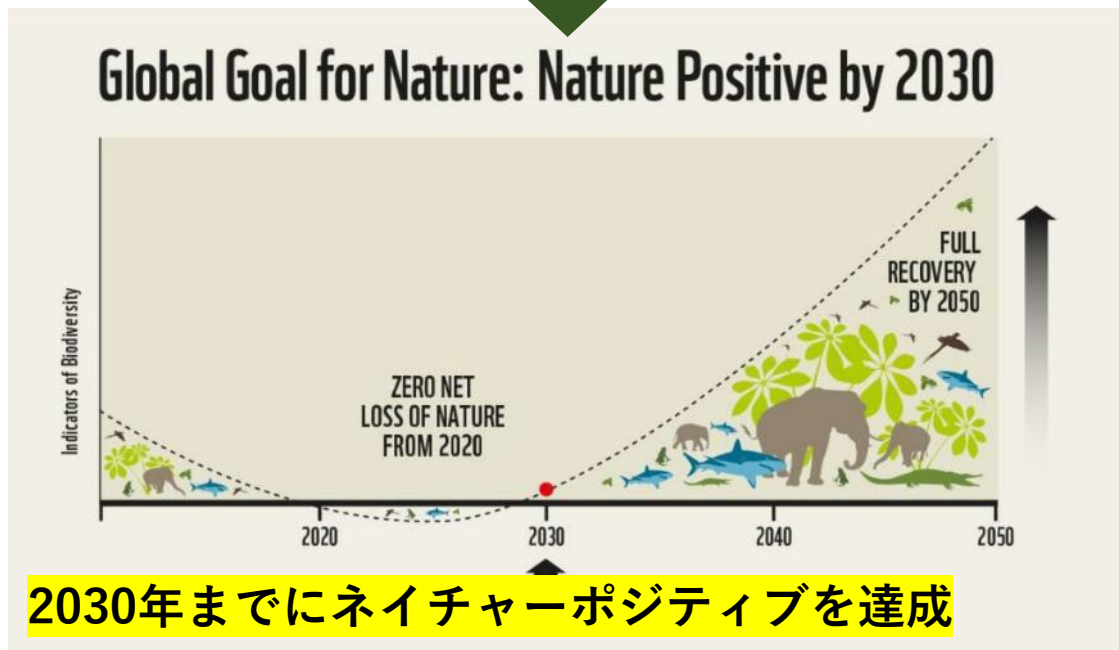
東京大学 工学系研究科 都市工学専攻 飯田晶子



写真はすべて発表者撮影

ネイチャーポジティブと生物多様性ネットゲイン（BNG）

◆「守り」の保護から「攻め」の介入へ



naturepositive.org

◆イングランド環境法：生物多様性ネットゲイン

2021年に制度化

【法定義務】

1. 開発前後で生物多様性を10%以上純増させる
2. 最低30年間は生息地の質を維持する

【実施方法】

- A. オンサイトでのネットゲイン達成
- B. オフサイトでのネットゲイン達成
- C. 政府が発行するクレジット購入

【生物多様性ゲインヒエラルキー】

オンサイト>オフサイト>クレジットの優先順位

BNGの計算では、オンサイトにインセンティブ*を与える

*オフサイトの場合、以下の減価が設定されている
隣接自治体の場合：×0.75 遠隔地の場合：×0.50

再野生化

◆再野生化とは？

再野生化とは、自然のプロセスを回復し、必要な場所では失われた種を再導入することで、自然が自らの力で景観を形成し、野生生物と人々の双方に広範な利益をもたらす活動と定義される。

rewilding is defined as an activity that seeks to reinstate natural processes and, where appropriate, missing species allowing nature to shape the landscape to provide wider benefits for wildlife and people.

ロンドン再野生化タスクフォース(2023)

Rewilding London - Final report of the London Rewilding Taskforce

◆再野生化の事例：KNEPP Estate (英国)

農業に不適な約1,400haの農地(西サセックス州)



大型哺乳類導入 + 植物の繁茂・枯死を容認

英国の希少種の鳥類・チョウ類の生息地に

日本国内における「BNG」と「再野生化」

◆BNGについて紹介する文献



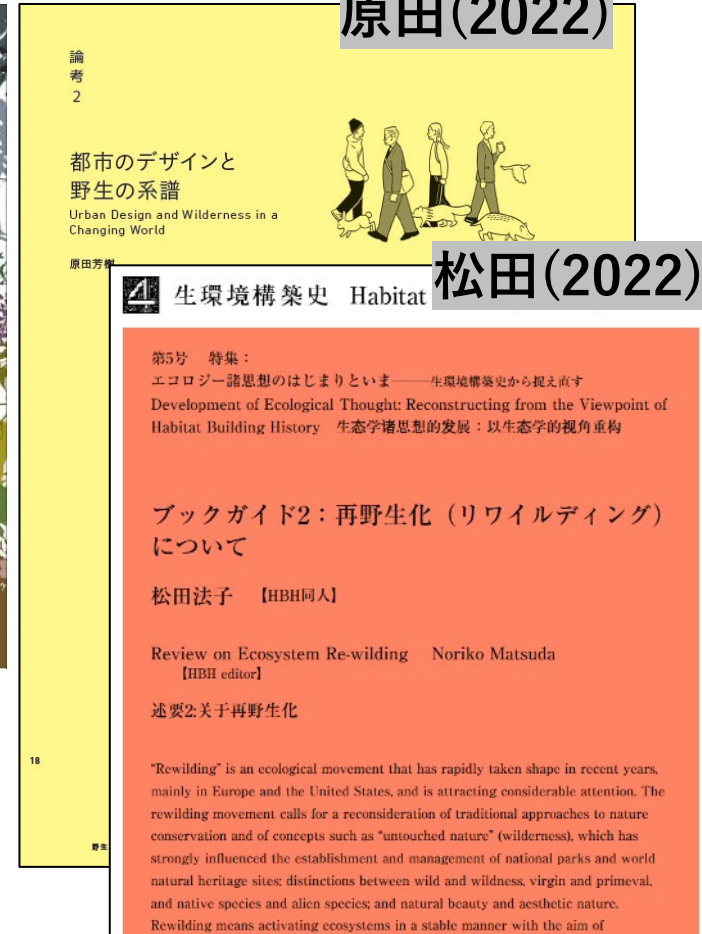
2025年9月、日経BP

中村(2024)



◆再野生化について紹介する文献

原田(2022)



2019年12月、築地書館

2025年3月、勁草書房

「BNG」と「再野生化」の関係を論じた文献は限られている

本発表の構成

本発表では、**イングランド・ロンドンを対象に、**

1. 「都市の再野生化」の可能性
2. 「BNG政策」の“オフサイト”ネットゲインの特徴
3. 「BNG政策」と「都市の再野生化」の関係

について解題し、**英国と日本の社会的・環境的特性の比較**を通じ、**日本への適応可能性を考察**する。

BNGオフサイトの枠組み

【開発事業者】は敷地外における自然回復を選択可能。

【行政(責任当局*)】は「**地域自然回復戦略**」を策定する。
“ハビタット地図”において、自然回復可能地域を指定し、
敷地外の自然回復を誘導することが可能

【責任当局*】とは、イングランドを48地域に区分した地域を指す。
大ロンドン庁は責任当局の一つ。

2025年9月(初版公開)
ロンドン地域自然回復戦略(LNRS)

連動

2023年3月
ロンドン再野生化報告書

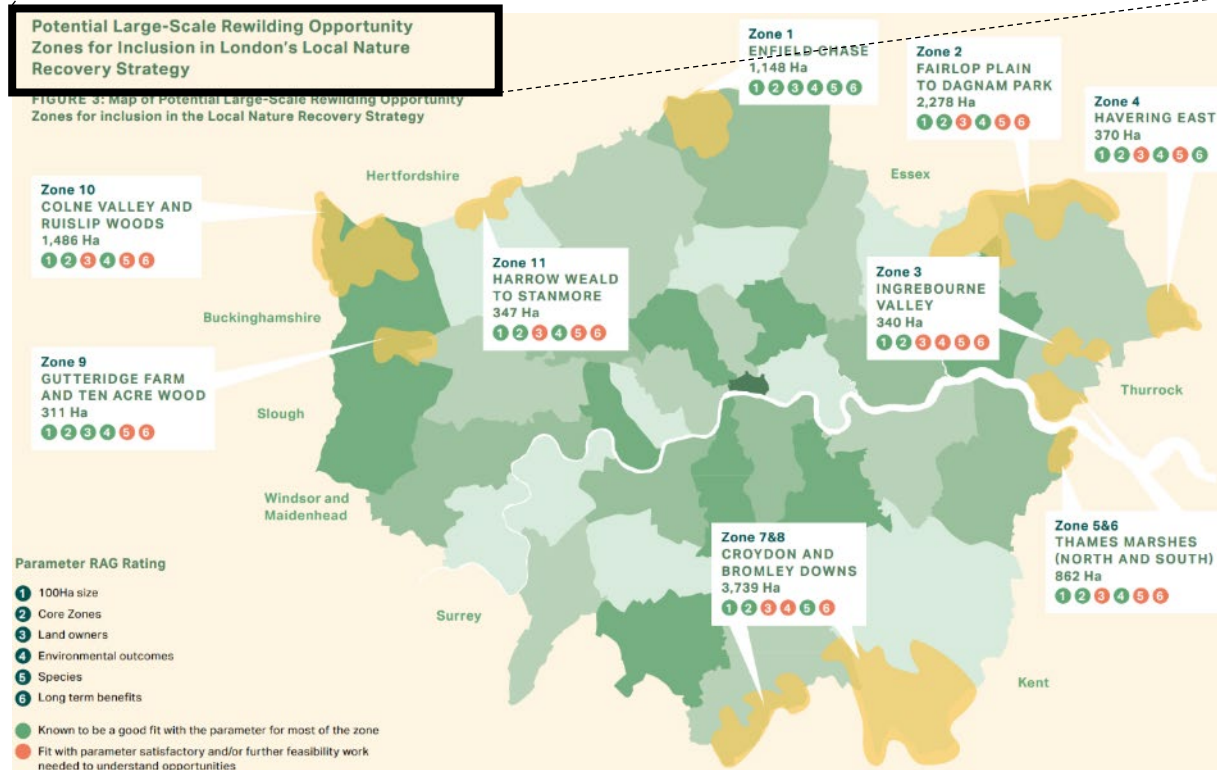


1. 「都市の再野生化」の実践



Potential Large-Scale Rewilding Opportunity Zones for Inclusion in London's Local Nature Recovery Strategy

LNRSに含める“大規模な再野生化”可能性区域



区域指定パラメータ（すべてを満たす必要はない）

- ①100ha以上
- ②50ha以上の保護地域
- ③地権者の理解
- ④環境影響
- ⑤種の再導入可能性
- ⑥長期的な実践可能性

地域計画(LNRS)の策定に向け、再野生化ポテンシャルが高い地域を可視化

2. 「BNG政策」の“オフサイト”ネットゲインの特徴

生物多様性ユニット=生息地の「面積」×「質」

BNGの計算式

生息地の「質」=①特色×②状態×③戦略的意義
 希少性等 密度等 計画における位置づけ等



ハビタット地図



- 生物多様性の重要地域：既存の自然保護区
- 生物多様性の重要可能性地域：自然保護を優先的に実施すべきエリア

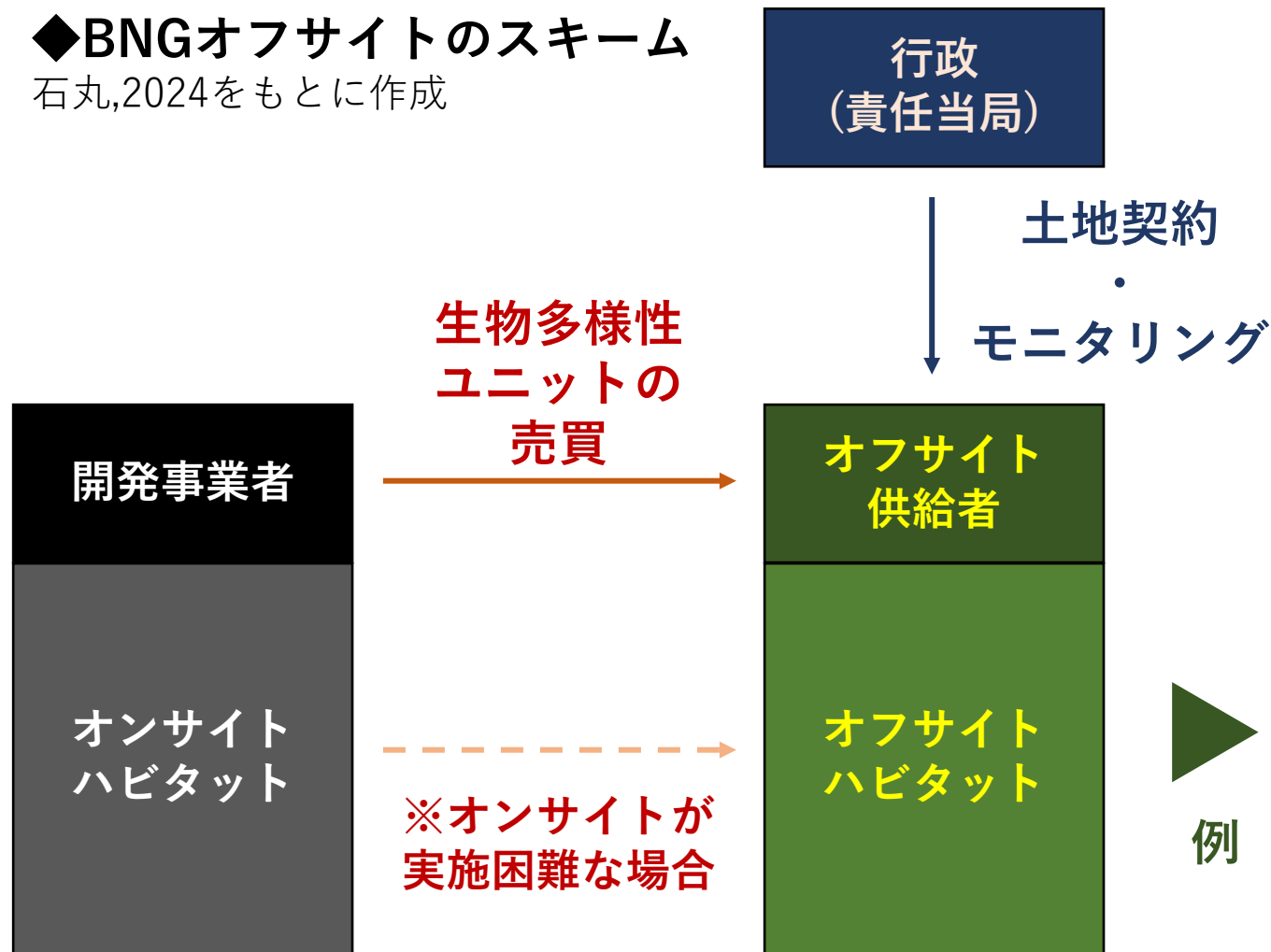


再野生化の可能性区域を、地域計画(LNRS)において「重要可能性地域」に指定
 LNRSを用いることで自然回復を図る土地の誘導を促進

3. 「BNG政策」と「都市の再野生化」の関係

◆BNGオフサイトのスキーム

石丸,2024をもとに作成



◆再野生化の実践（例：ビーバー導入）



例

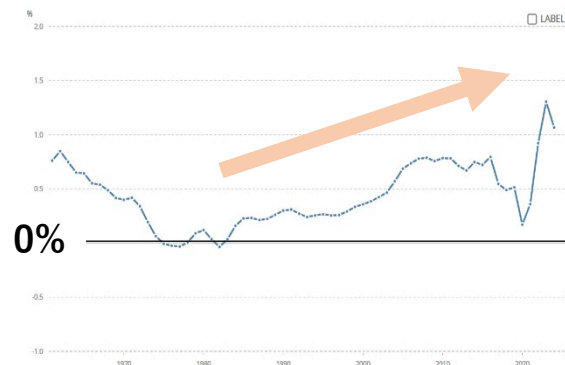
ビーバーがもたらす生態系サービスを、BNGオフサイトが『**新たな資金源**』に変化させ、再野生化の実践を加速

BNGが再野生化の実践を加速するため**資金源**になり得ることを示唆

まとめと考察：日本への適応可能性

英国

人口増加基調



冷涼乾燥・低多様性

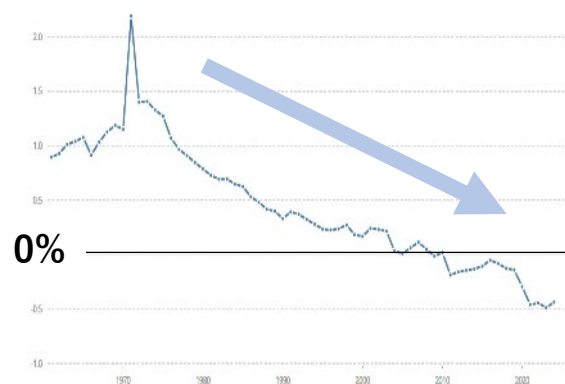


英国では「生み出す再野生化」が課題

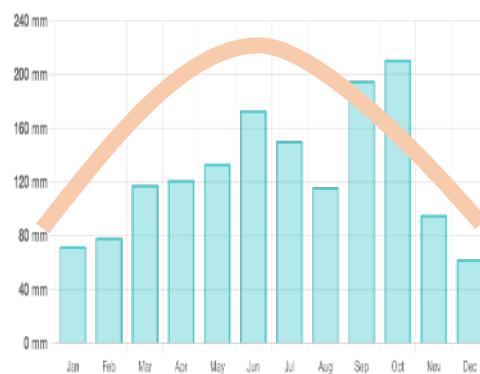
⇒オンサイトでの回復が優先

日本

人口減少基調



温暖湿潤・高多様性



日本では「入り込む野生」対策が課題

⇒ただし開発地域と課題直面地域は乖離

日・英 年別人口増加率
Source: World Bank Group

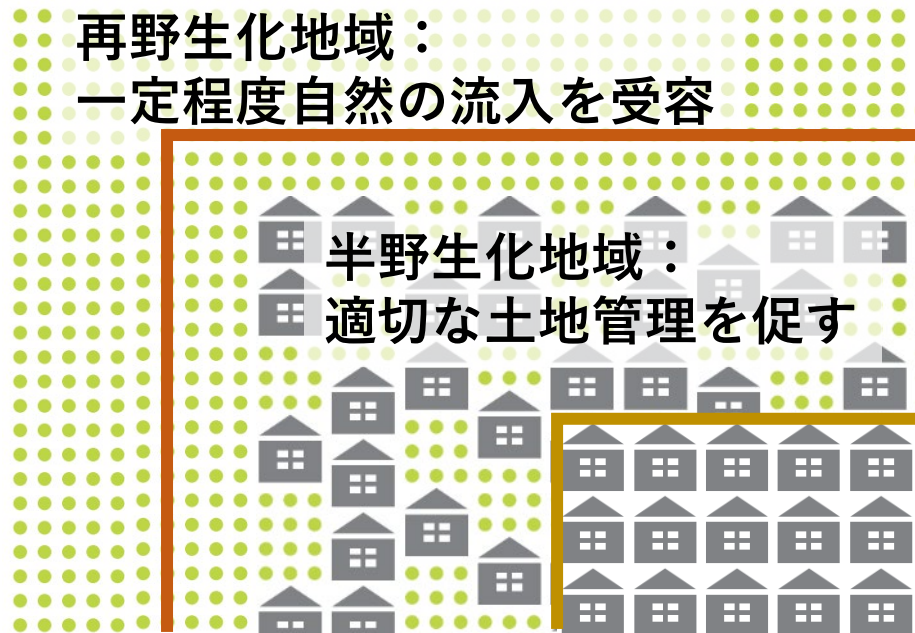
東京・ロンドン 月別降水量
Source: Whether & Climate

“オフサイト”を中心に据えた日本版BNGへ

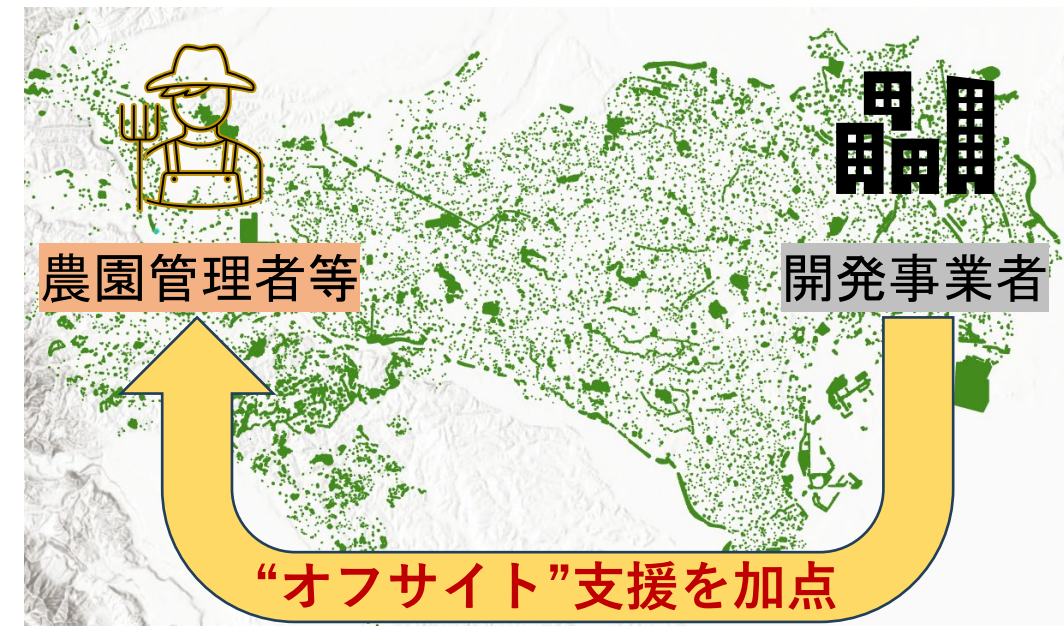
まとめと考察：日本への適応可能性

「**入り込む野生**」対策を基軸にした日本版BNG（提案）

★自然管理の必要性に応じた地域指定



★土地管理団体への継続的支援



東京都「みどりシェープファイル(2019)」をもとに緑被地を着色

“再野生化地域”と“**半野生化地域**”を
指定し、後者で土地管理を促す

“**半野生化適地**”で適切な管理活動を
担う団体に一定期間の支援